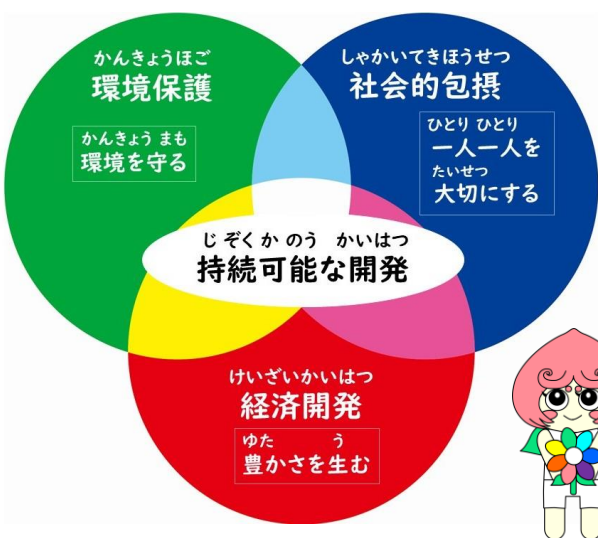


「サステナブル」ってどういうことですか？



「サステナブル」は“Sustainable”という英語の単語をカタカナで表したものです。「サステイナブル」と書くこともあります。“Sustainable”には、“sustain”（続ける、保つ、支える）と“able”（～できる）が合わさって、「今だけでなく、ずっと続けていける」「持続可能な」という意味があります。SDGs「持続可能な開発目標」の“S”は“Sustainable”の頭文字です。



これから、私たちみんながより良い世界で暮らしていけるようにするためには、環境保護、社会的包摂、そして経済開発の3つが揃った「サステナブル」な開発を目指していくことがとても大切になります。

「社会的包摂」は「社会的排除」と対になる概念で、ソーシャル・インクルージョン（Social inclusion）とも言います。子どもや障がい者、高齢者、移民・難民など、弱い立場にある人も含めて、全ての人々が社会に参加して、潜在的に有する能力を発現できるようにすることです。SDGsの理念「誰一人取り残さない」そのものと言えます。

Check！
夏のイベント

全国高校生地方鉄道交流会



2023年8月18日（金）から20日（日）にかけて、伊達市で「第12回 全国高校生地方鉄道交流会」が開催されます。

主催の一般社団法人 全国高校生地方鉄道交流会は、鉄道好きの全国の高校生と各地に赴き、鉄道を基軸とした地域活性化を提案する活動を行っています。これまでの対象路線は、秋田内陸縦貫鉄道（秋田県）、いすみ鉄道（千葉県）、三陸鉄道（岩手県）、のと鉄道（石川県）、東京モノレール（東京都）など。第12回目となる今回は、阿武隈急行線が採用されました。

今夏のテーマは「阿武隈急行を利用した、地元商店街活性化とは」。全国から集まる高校生たちが、伊達市および阿武隈急行線沿線を舞台に、写真部門と企画部門で競い合います。参加高校生たちが阿武急に乗車して市内を巡り、皆さんにも質問やアンケートをお願いするかも…ぜひ、協力したいですね！高校生の目線で切り取る風景。高校生が描く鉄道と社会の展望。どちらも楽しみです。プレゼンは20日（日）保原市民センターで行われます。



車内吊りポスター
※参加申し込みは7月18日（金）に受付を終了しています。

詳細は、一般社団法人 全国高校生地方鉄道交流会の公式HPをご覧ください。
<https://chitetsukoryu.org/>

伊達市市民活動支援センター

〒960-0756 福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階

月～金曜日(年末年始除く) 午前8時30分～午後5時15分
※木曜日は午後7時00分まで

TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971

E-mail: bz004492@date-civilsu-pport.jp <http://www.date-civilsupport.jp/>

伊達市市民活動支援センターNEWSのバックナンバーはHPからごらんいただけます。



だってちゃんは、伊達市が千葉県白井市と友好交流協定を締結した際に贈られた、伊達市ゆかりのキャラクターです。

伊達市市民活動支援センターNEWS



2023 夏号

2023（令和5）年 7月発行 vol.55
企画・編集
伊達市市民活動支援センター
〒960-0756
福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階
TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsu-pport.jp
<http://www.date-civilsupport.jp/>

市民活動 いろは
教えて！だってちゃん

Q. NPOとボランティア。どこが違うの？

A. NPOは「組織（団体）」、ボランティアは「人」を指しています。

社会のために何かしたいという意志を持ち、自主的、自発的に活動する「組織（団体）」をNPO（非営利組織）と言います。他方、ボランティアはそうした「人」のことを指します。社会貢献を目的とする有志の「人」が集まり、活動を「組織」的に実施、継続する体制が整えられれば、その集まりはNPOであると言えます。

NPO（非営利組織）の原則である「非営利」は、事業で利益をあげてはならないということではなく、あげた利益を分配せず、組織本来の活動資金にあてるという意味です。社会貢献活動を組織的、かつ継続して行うためには資金が必要です。「NPOは儲けてはならない」とか「NPOで報酬を得てはならない」というのは誤解です。

ボランティアという言葉も、本来、個人の自由意思に基づく自主的・主体的な行動であることを意味し、無償の概念は伴っていません。つまり「ボランティア＝タダ働き」も正しい理解とは言えません。志のある人が必要な時間や経費を確保して、成果の見える活動を継続して行っていけるよう、有償でボランティアを募るケースも増えています。

ボランティアは、社会貢献したい人が自主的に
行う活動です。労働力不足の解消のため募集したり、
参加を強制するものではありません。



有限会社 穂友
農産物直売所 かぼちゃ
伊達市霊山町下小国字清水24

農業と地域の未来

私たちの会社の前身は、地元の育苗センターとライスセンターの利用組合です。2003（平成15）年に法人格を取得しました。両センターの作業受託をメインに、震災後は稲作を続けられなくなった農家から土地を借りて、米を“自作”するようになっていきます。地区内に点在する耕地は計9ha。うち6ha相当で食用米を生産しています。販売先は近隣の介護施設や道の駅などで、市のふるさと納税にも採用されました。私たちの理念は、農業を通じて霊山小国の未来に貢献すること。組織に対する信頼獲得はもちろん、法人として目指すところを見出し、共有していくためにも、GAP*認証の制度が役立っています。



「旨（うま）い米」ラベル

「かぼちゃ」の距離感

1998（平成10）年から直売所「かぼちゃ」を運営しています。当時は出張販売なども活発に行っていましたが、震災前年をピークに売上は半減。出荷してくれる会員さんの高齢化も進み、隣に道の駅の開業が決まったときには店を畳むことも覚悟しました。ところが…利益は出ないまでも、店を維持できるくらいの売り上げは確保できることがわかりました。「かぼちゃ」に出す人。「かぼちゃ」で買う人。エプロンでも、長靴でも、多少泥がついてたって大丈夫。そんなところが愛されているのかも…？地元の皆さんに支えられたお店だと思います。（024-586-3311 梅澤）

*GAP(Good Agricultural Practices)
：農業生産工程管理。



4

質の高い教育をみんなに

11

住み続けられるまちづくりを

だてな活動

特定非営利活動法人

梁川町歴史文化財保存協会

伊達市梁川町字上町10番地

QRコードから支援センターHP内の紹介ページにアクセスできます。

郷土の歴史文化とまちの活性化

梁川町は歴史の薫り豊かなまちです。その価値を埋もれさせることなく、世代を超えて受け継いでいくために何ができるだろうか。生涯をかけて取り組むライフワークとしての歴史研究とは別に、文化財を資源に、まちづくりに取り組むことも必要なのではないか。私たちの法人は、2010（平成22）年、そんな思いの下に誕生しました。歴史文化の擁する幅は広く、その保存や活用には多くの時間とお金がかかります。一方、目に見える経済効果には直結しないので、息の長い活動が求められます。公的な支援が十分に及ばないところも、市民の立場から活動をおこし、地域をあげてまちを盛り立てていきたい。梁川城本丸跡の整備や、文献史料の整理保存など、最小の予算で最大の効果をあげるべく取り組んでいます。

ガイド仲間になりませんか

私たちは、梁川町の史跡をめぐる観光ボランティアガイドもしています。まちの魅力を自分自身の言葉で語り、まちを訪れる人に伝えられることは大きな喜びです。ガイドは、他団体とも協力し、20人前後を目標に養成中です。全ての史跡に対応できるメンバーは少数で、複数人が分担してアテンドすることもあります。ガイドの高齢化が進み、体力的に対応が難しいケースも出ています。私たちは、あまり肩ひじ張らず、まずはどなたにでも歴史に親しんでもらいたいと思っています。自分が暮らす地域の歴史文化に興味を感じたら、ぜひ学んでみてください。そして、その延長線上で、知り得た魅力を他の方に伝えたいと思ったら…ぜひ、私たちのガイド仲間になってください。（042-577-0227 事務局、梁川天神社社務所内）



第6回
ふちゅーる・だて
（3月、伊達中央交流館）

ふちゅーる^{*}・だて

伊達市伊達町

ハンドメイドのステータスを上げたい

昨今、マルシェや手作り市など、ハンドメイド商品を販売するイベントが多くなりました。私たちが運営する「ふちゅーる・だて」の特徴は、作り手の意識と作品の質の高さにあると思います。プロが作り出した個性豊かな作品がずらりと並びます。ハンドメイドとは、人の手により作られたものの総称です。趣味の一環で製作されたものも、職人が仕事として製作したものも等しくハンドメイドですが、その間には大きな違いがあります。プロの名に恥じない技術を持つ作家の作品を手に取り、その価値を実感してもらいたい。共感してくれた作家さんと、メンバーの応援に支えられ、7回まで開催を重ねることができました。

伊達町にふらりと立ち寄れる場所を

質の高いハンドメイドの世界を知ってほしい。なんて言うと、敷居が高く感じられてしまうかもしれませんが、私たちが目指しているのは、モノを通して老若男女が行き交う、地域密着型の場所づくりです。伊達町の人口は年々増加していますが、商店街に以前のにぎわいは見られず、少し寂しい通りになっています。そこにもし、ふらっと立ち寄り、世間話ができる場所があれば…訪れる人の間に繋がりが生まれ、悩んでいる人や、夢があっても壁に直面して前に進めないでいる人に、問題解決の橋渡しができるかもしれません。応援する人が増えれば、ますます人が集まり、関わり合い、まちのにぎわいにもつながるでしょう。伊達町に店舗を構える夢を持ちながら、今はイベントで修業を積んでいます。（090-9634-0532 齋藤）

<https://www.facebook.com/futuideate>



^{*}ふちゅーる (futur)
：未来を意味するフランス語。

だてな活動

2

食料をゼロに

11

住み続けられるまちづくりを

15

緑の豊かさも増そう

だてな活動

2003（平成15）年、県の奨励品種に採用された小麦「きぬあずま」を、増加する遊休農地の解消に繋がらないかと考え、企業組合を立ち上げました。この辺りは平地に乏しく山がちで、かつては雑穀や麦が多く栽培されていました。町内には製粉所が複数あって、だんご汁やうどんなど、日々の食卓にも粉物が定番としてあがったものです。きぬあずまはうどん加工適性の高い品種です。当初から月舘町産の地粉を使った「小手姫うどん」製品化を目論んでいましたが、なかなかうまくいかず…震災の影響もあって、やがて組合は休眠状態に陥りました。2018（平成30）年、「道の駅 伊達の郷りょうぜん」開業に合わせて一念発起。うどん店の出店を決め、新たに自前の製麺所も整備することにしました。

うどんを介して、うどんのように…

道の駅に常設店を構え、自家製面のうどんを提供しだして5年になります。正直言って経営は大変厳しいのですが、新しいことを始めたくまりました。道の駅は、他所から来たお客さんがうどんを味わい、通過していく店（リピーターもいますけれど）。地元の人がうどんを楽しみ、くつろぎ、たずむ。そこに他所から来たお客さんも自然に混ざり、やりとりが起こる。そんな店もあって良いのではないかなと思ったのです。2023（令和5）年4月、昔から交通の要所だった御代田字六角に「ろっかく茶屋」をオープン。製麺所に併設する香川県スタイルのうどん店です。地域の人たちが、うどんを介して、うどんのようにつながる。そんな店に育って欲しいと思います。（090-5937-3111 森）



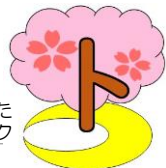
小手姫うどん



店内と製麺機（右）



公署で作られた
地区のロゴマーク



富成地域まちづくり振興会

伊達市保原町富沢字羽山8

楽しくなること請け合いです

人口減少。高齢化。中山間地域には大きな課題がありますが、まずは、そこに暮らす私たちが、日々を楽しく過ごすことが第一であると思います。地域の皆さんには、一日の終わりに、ささやかな喜びとともに「ああ、今日も良い日だったな」と思ってもらいたい。私たちは、皆さんが楽しめる、楽しくなるような企画・事業であることを何よりも大切にしています。のど自慢大会は地元の活躍で大いに盛り上がりました。富成芸術祭やばんかた市は、地区内外の皆さんと一緒に楽しめます。毎月のばんかた市には、地物の野菜や果物に加えて、近隣からも食品や手工芸品、衣料品等の出品があり、多くのお客さんが訪れます。物だけではなく、人と人とのやりとりも楽しんでもらいたい。珍しい物を展示する「我が家の宝物」コーナーなど、会話を弾ませる仕掛けも怠りません。富成においでいただければ、楽しくなること請け合い。リピーターが多いことはその証しだと思います。

キャッチフレーズ「伊達に富成あり」

小さいながらもキラリと輝き、一目置かれる存在でありたい。私たちのキャッチフレーズ「伊達に富成あり」にはそんな思いが込められています。今夏、ばんかた市3年の歩みの中から、富成の新しい名物が誕生します。富成地区の産品と、地区外からの出品者、地元伊達高校の生徒さんがコラボして、さて、何が出てくるか？暑い季節にピッタリの…どうぞ、お楽しみに！（024-575-5946 湯田）



6月ばんかた市



ろっかく茶屋

3

すべての人に健康と福祉を

11

住み続けられるまちづくりを

17

パートナーシップで目標を達成しよう

だてな活動



6月ばんかた市
「我が家の宝物」
火縄銃

富成地区（18行政区）
・人口：1,030人
・世帯数：427世帯
（2023年5月末現在）